

# 新丸山ダムは、昭和31年に完成した丸山ダムを有効活用 かさ上げして、洪水を調節する容量などを増やすダムです

丸山ダムは、河口から約90kmの木曾川本川上に位置し、木曾川本川に流れ込んでくる水のおよそ1/2が集まってきます。その上流の雨が集まってくる面積(流域面積)は約2,400km<sup>2</sup>もあり、現在運用中の我が国のダムでは最も大きいにもかかわらず、洪水を調節するための容量は約2,000万m<sup>3</sup>しかないダムです。【図-1参照】

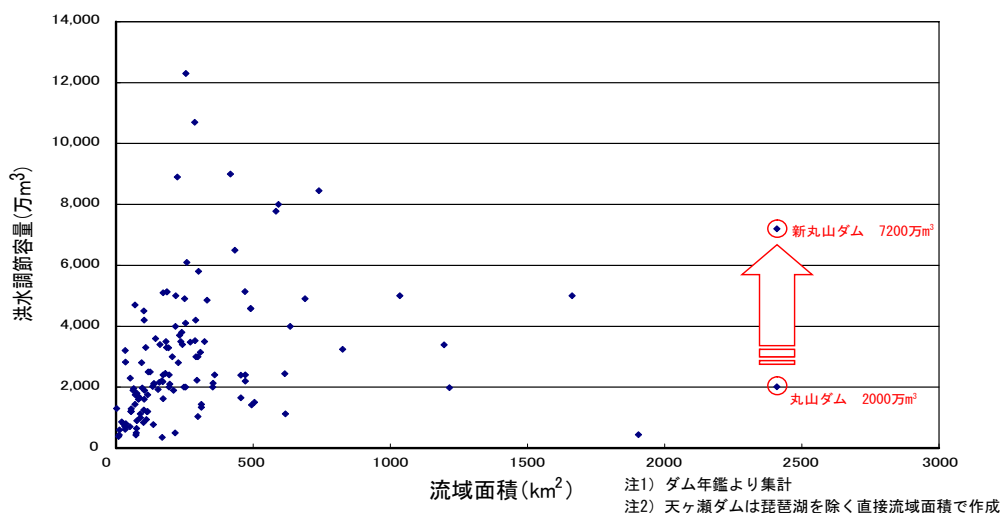
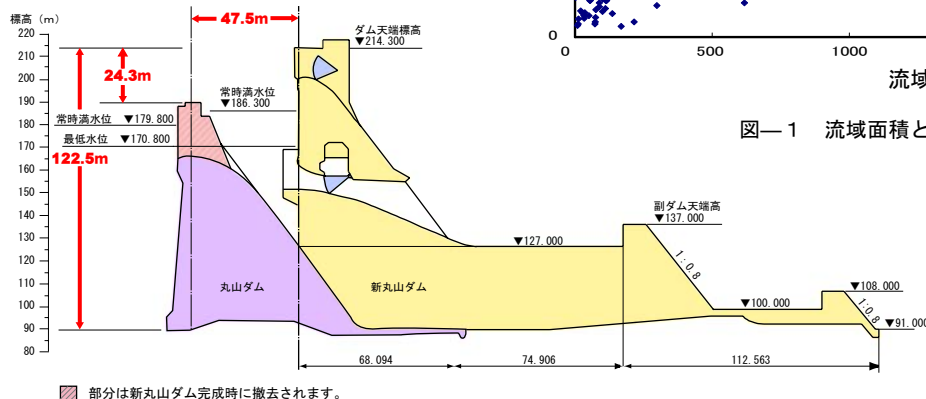


図-1 流域面積と洪水調節容量(直轄管理ダム)

## ●ダム標準断面図



今渡ダム付近航空写真



昭和58年9月洪水の状況(美濃加茂市内)  
(出展)「忘れ得ぬ9.28災害 災害誌(美濃加茂市)」

昭和58年9月に発生した観測史上最大の洪水では、洪水を調節するための容量が不足したことから、「ただし書き操作」と言う、上流から流れ込んできた洪水を調節せずにそのまま下流に流す(流入=放流)操作を途中から余儀なくされ、美濃加茂市やなどで住宅地の中に洪水が流れ込む大災害になりました。

その災害が契機ともなり、丸山ダムの洪水を調節する容量を約3.5倍の7,200万m<sup>3</sup>に増強する新丸山ダム建設事業が昭和61年に事業化されました。

新丸山ダムが完成すると、昭和58年9月洪水と同じような規模の洪水が発生しても、例えば今渡ダム下流地点で約3m水位を下げるなど、安全に伊勢湾まで流すことができます(一部河道内の樹木の伐採や堤防の補強が必要です)。【図-2参照】

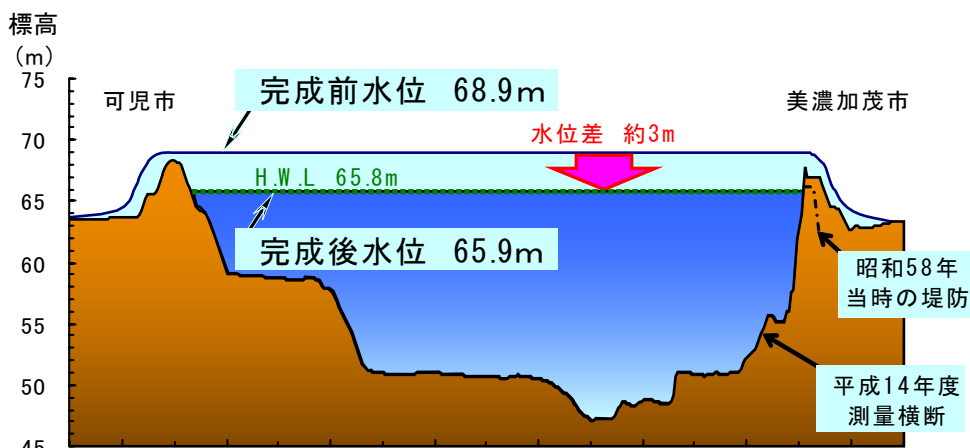


図-2 67.0k(今渡ダム下流)地点における水位低下効果